



ひまわり通信

日本共産党控室
市川市八幡1-1-1
334-1111 (18219)

日本共産党
市川市議員 **ひろた徳子**



2020. 10. 4 NO63

9月議会でも民生活、自治会活動、保育行政など質問しました

〈ごみの分別は進んでいるのか〉

質問 「市川市 プラスチック製容器包装中間処理施設」を見学し、瓶や缶、ライター、ハンガー、携帯電話なども混入している現状に、驚いた。分別をより周知するべきではないかと思う。

答弁 今後は、より分別ルールが理解できるよう、広報いちかわなどで啓発に務めるとともに、新たに動画を市公式YouTubeサイトで常時見れるよう発信したい。



〈自治会活動参加によるポイント付与の続きについて〉

質問 現エコポポイントの付与申請書は行事ごとの申請だが、毎回の提出ではなく総会資料など添付して、定期的な活動については、さらに手続きを簡略化できないか

答弁 わかりやすく、より利用しやすい制度となるよう、提出書類の見直しや、手続きの更なる負担の軽減を検討している。

質問 満点エコポポイントの交換メニューを拡大する考えはあるか、特に行徳地域では交換メニューが少ない。満点エコポカードで行徳野鳥

観察舎「アイネスト」のカフェのドリンク券との交換を提案。

答弁 関係部署と協議しながら、お礼としてふさわしく、その時々ニーズに合ったメニューを用意し、多くの市民の皆さんに喜んでいただけるよう、充実に努めていく。



〈病後児保育、一時預かり保育について〉

質問 市内4か所の病後児保育が、3か所になった。今後どのようにするののか

答弁 今後も引き続き地区バランスを勘案したうえで、保育施設・医療機関等に対してアプローチをし、病後児事業実施につなげていきたいと考えている。

質問 国は、「一時預かり保育事業は一時的な保育だからこそ、専門性と経験のある有資格者を配置し子どもや安全や発達に配慮する必要がある」としている。しかし保育士確保が困難だからと言って子育て支援員も含めるように緩和した。これでは保育の質の確保はできない。本市での対応を伺う。

答弁 民間の保育施設においては、有資格者と千葉県が実施する子育て

支援員研修を受講した子育て支援員が、保育を行っているのは1施設のみで、その他の13施設では、有資格者が保育を行っている。

質問 国では待機児童対策として受け皿の役割を担う一時預かりは、本市では待機児童解消が進んでいる。ために意味合いが変わってきている。しかし必要性は高まっており、経営不振で事業が続けられなくなるようなことがないようにお願いしたいと要望。

答弁 引き続き地区バランスを勘案し、病後児事業実施につなげていきたいと考えている。

〈避難行動要支援者について〉

質問 災害時の対応の具体的なイメージが持てない、地域で研修会を行うなどの支援はできないか、また、安否確認をするためチェックシートはつくれないか。講習会は広く呼びかけ、何度も行うことが必要。今はコロナ禍だからと、災害が来ないわけではない。DVDやオンラインを活用しても行うことはできません。工夫して取り組むことを要望。

答弁 研修会や避難訓練などの実施は、有効な手段であるものと認識している。現在はコロナ禍でもあり、今後の状況を見ながら推進していく。チェックシートは、提案含めて検討する。



9月18日、私の住んでいるマンション集会所で行われた研修会に参加しました。密を避けるために予約制で30名定員でしたが、40名の参加と盛況でした。超高齢者社会、核家族や終活の話などがありました。参加者は熱心にメモを取り、聞いていました。他にも認知症講座や、男性介護者講座など様々な講座があります。参加を希望される方は、高齢者サポートセンターまでお申し込みください。

「家族介護」研修会に参加しました

高齢者サポートセンター主催

浅野ふみ子さんを囲むつどい



9月26日、浅野ふみ子5区候補を囲んでつどいを開きました。市政の問題、安倍政権を継承する菅政権について、真実を伝えないメディアについてなど話題は尽きず、楽しいひと時でした。

**第2回目を10月10日（土）14時から
行います、ぜひご参加ください。**

2019年度決算審査 日本共産党は反対しました

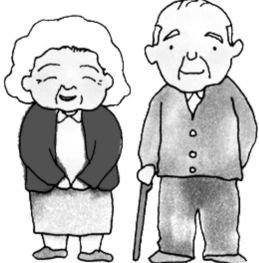
今9月議会は、村越市政の1年目の決算が主な議題。公共施設使用料の引き下げ、待機児解消への取り組み、子ども医療費助成の所得制限撤廃、特定不妊治療費助成事業に市の助成、行徳野鳥観察舎の整備事業、特別教室のエアコン設置率を向上するなど、市民との約束・公約を実現したことは、評価するものです。しかし、テスラ社製高級電気自動車問題、非識別加工情報提供事業、近隣市の市長と比較しても突出している海外視察など、市民の同意を得られるものではないと主張し、反対しました。

高齢者等ごみ出し支援開始

2018年6月議会での要望実現

私が、「高齢者のへごみ出し支援は、高齢者の生活環境の保全やごみ屋敷化を未然に防止し、支援者が定期的に訪問することで高齢者の見守りの機能となる。マンションに住む高齢者が下の集積所まで運ぶことが困難、杖をついてのごみ出しは大変、雨の日なども大変だとの声があり、高齢化の中での支援をどう考えるのか」

と質問したことに対し、市は、今年4月、対象者2,943世帯に郵送で希望者を募りました。その結果、153世帯に対し6月から支援を実施しています。今後議会へ市民の声を届けます。



ひとりごと…今年もあと3か月。コロナに始まり、平時が平時でなくなりまして。先日やつと初詣に行つて、昨年の選挙の時、黒い目を入れただるまを奉納してきました。安倍政権を継承する菅政権は、「自助・共助・公助」を掲げ自己責任を強調し、生活保護費の引き下げ、国民の台所はますます火の車です。野党共闘で政権を変えたい。私が市議になつた年に、戦争法が強行採決され、その後「モリカケ」「桜を見る会」など改ざん・隠ぺい・虚偽…の政治。うやむやにはできません。子どもから高齢者まで安心して暮らせる日本や地域であるために、日本共産党を大きくしたい。私も頑張ります。